

2023 年度事業報告

【1】公益事業の部

1. 一般研究助成

1. 第43回一般研究助成対象者の論文をまとめて「がん治療のあゆみ」第43巻を刊行した。
2. 第44回一般研究助成は、応募件数 がん薬物療法で48課題、医療機器8課題を審査し、がん薬物療法で4課題、医療機器課題1題を選考した。
3. 第44回一般研究助成者 5名に助成金を贈呈した。

2023年度 第44回一般研究助成金受賞者および研究課題は次のとおり。

【がん薬物療法部門】

応募者氏名	応募者所属施設	研究課題
家里 明日美	がん研究 NEXT-Gankenプログラム がん細胞多様性解明プロジェクト クリニカルリサーチフェロー	産後乳腺内リンパ管を用いた癌との相互作用を 標的とした新規治療法の開発
井田 智	熊本大学大学院生命科学研究部 消化器外科学 助教	多職種により構成される栄養・運動支持療法チ ームによる胃癌の短期的・長期的予後改善プロ グラムの開発と分子メカニズムの解明
田中 晃司	大阪大学大学院 外科学講座 消化器外科学 助教	食道癌に対する集学的治療におけるctDNAによる 微小癌細胞検出と個別化治療戦略の開発
米村 祐輔	九州大学病院別府病院 外科 講師	空間的シングルセル解析によるMSI-H進行大腸が ん治療におけるパラダイムシフト

【医療機器部門】

応募者氏名	応募者所属施設	研究課題
薛 宇孝	国立病院機構九州がんセンター 整形外科 医長	長管骨転移性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法と 髄内釘固定の併用療法の有効性・安全性の探索

2. 臨床研究

JFMC34-0601：ホルモン陽性Stage II, IIIA, 閉経後乳癌に対するエキセメスタン24週間術前治療の有用性の検討（臨床第II相試験）

1. 最終論文を作成中。

JFMC41-1001-C2（付随研究）： Stage II /Stage III 結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法の認容性に関する検討ーオキサリプラチンの安全性指標に関する策定研究ー

2. 遺伝子統合解析を実施中（JFMC47付随統合）

JFMC46-1201: 再発危険因子を有する Stage II 大腸癌に対する UFT/LV 療法の臨床的有用性に関する研究

1. 英文論文(再発危険因子)を発表した(International Journal of Colorectal Disease

DOI: <https://doi.org/10.1007/s00384-023-04559-7>)

2. 英文論文(最終解析)を投稿中

JFMC47-1202-C3（付随研究）： Stage III 結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法または XELOX 療法における 5-FU 系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第 III 相比較臨床試験 付随研究

※JFMC41付随統合解析

1. 遺伝子統合解析を実施中（JFMC41付随統合）。

JFMC48-1301-C4： 再発危険因子を有するハイリスク Stage II 結腸がん治癒切除例に対する術後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法または XELOX 療法の至適投与期間に関するランダム化第 III 相比較臨床試験

1. EDCによるデータ回収を行い、データ処理を行った。

2. 認定 IRB (CRB) へ定期報告 (2023. 4)、適宜変更申請を行った。

JFMC50-1701-C6： ロンサーフ (TFTD) 使用症例の後ろ向き観察 (コホート) 研究

1. 英文論文を作成中。

・2023年度 臨床研究明細一覧は次のとおり。

2024.3.31時点

JFMC	集積期間	追跡期間	登録施設/参加施設	集積数/目標数	現在の状況
34	2006.3-2007.12	~2018.8	30/37(81.1%)	116/110(105.4%)	英文論文作成中
41付随研究	2011.1-2012.12	-	100/128(78.1%)	486/800(60.7%)	最終解析中
46	2012.5-2016.4	~2021.4	321/395(81.0%)	1230/1200(102.5%)	英文論文投稿中
47付随研究	2012.8-2014.12	-	159/244(65.2%)	893/1200(74.3%)	最終解析中
48	2014.2-2017.1	~2024.1	102/170(60.0%)	525/500(105.0%)	最終解析準備中
50	2017.6-2017.11	-	127/142(89.4%)	1770/1200(147.5%)	英文論文作成中

3. データベース事業支援委員会

1. 2020年度に採択された6研究の解析を実施した。

2. 解析結果の論文化・公表関連業務を行った。

研究番号	研究課題	現状報告
JFMC-DB2020-01	大腸がん T1/T2, N(+) 症例における術後補助化学療法の有用性	論文投稿中
JFMC-DB2020-02	腎機能障害患者における大腸癌補助化学療法の検証	Anticancer Research掲載

JFMC-DB2020-03	大腸癌術後合併症と術後補助化学療法施行及び予後への影響	IJCO掲載
JFMC-DB2020-04	Stagell、III直腸癌に対する術後補助化学療法の進行度ステージ別の有効性に関する後ろ向き探索的な統合解析	論文執筆中
JFMC-DB2020-05	高齢者における大腸癌術後補助化学療法の有効性と忍容性	論文執筆中
JFMC-DB2020-06	大腸癌術後補助化学療法における有害事象と予後の関連	論文執筆中

4. 医療機器委員会

1. 第10回医療機器委員会を開催した。(2024.3.18)
2. 医療機器事業の推進にむけ、どのようなニーズに対して、どのような対策や整備をしていくべきかを分析し、医療機器委員会にて共有した。

5. 利益相反委員会

1. 第6回利益相反委員会を開催した。(2024.2.5)

6. がん社会イベント啓発活動

1. 「がんフェア2023～AYA世代と共に～」(2023.6.17～18)東京体育館サブアリーナで開催した。ハイブリッド型イベント(リアル×オンライン)メインステージの様子は当日、公式WEBサイトでライブ配信(YOUTUBE)し、TV(NHK、フジテレビ)で紹介された。

7. 広報活動

1. がんフェア特設HP・SNS(Instagram、YouTube、Twitter)の開設と配信をした。
2. 当財団ホームページにおいて諸事業を適宜情報発信するとともにメールマガジンで事業報告を1900名以上に配信した。

【2】収益事業の部

1. 医療機器事業

1. 医療用弾性ストッキング製品の市販後使用成績評価について、試験結果を取りまとめ報告書を作成し、依頼企業に納品した。調査委託費用残金分の着金を確認した。
2. 医療機器委員会では、医療機器事業のコンサルタントより、医療機器事業の認知度向上のためのマーケティング戦略について提案があり、具体的には、医療機器に関するコンサルティングを希望する企業等向けの専用ウェブ記事を作成し、新規問い合わせ件数を増やすための施策を実行した。